

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	アジアコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。	多文化・多民族社会であるアジアの多様性を理解でき、かつその知識を背景として、日本が位置する東アジアの近隣諸国との緊密化する交流と複雑化する関係を理解し、その上で交流の一角を担うことのできる人材を輩出することを目標とする。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類およびコースのGP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

【学類のCP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でこころなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。 【コースのCP】 アジアコースにおいては、中国・朝鮮半島・東南アジア・南アジア・西アジアの幅広い地域について、人文科学・社会科学の様々なアプローチからの科目を提供し、学生の多様な興味関心に応えるとともに、学際的な思考力を備える人材の育成に資する。また、高度の中国語・朝鮮語能力を身につけることを可能とする言語コミュニケーション科目群を設定する。	東アジアの文化・社会の存在様態についての高度な専門知識を習得している。 他の地域や世界の状況や比較の視点から、俯瞰的に東アジアの文化・社会を考察する能力を獲得している。 日本とアジア諸国の関係について、専門的知識に裏打ちされた自らの意見を持ち、両者の交流の仲介役となることのできるコミュニケーション能力を備えている。 中国語・朝鮮語または英語で書かれた文献を正確に読解し、確実な情報基盤を築く能力を有している。 自らの論理的な思考を、正確かつ高度な中国語・朝鮮語または英語を使って表現する能力を有している。 日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習日	学年	前期	後期							
18001	国際学入門	国際学の概要・基礎的概念を把握する	1	*			○	◎				
18002	国際政治A	近代東アジアの国際関係の展開過程を理解する。	2	*			◎	◎	○	△	△	
18003	国際政治B	暗黙的歴史を極力排除する。歴史過程は一定の合理性と法則性の元に進行することを学ぶ。ヨーロッパ理解の基礎を構築する。	2	*				△			△	
18004	国際関係論	主として戦後の国際政治の展開と現状を理解する	2	*				◎			○	
18004	国際関係論	国際政治全体についての理論を検討する。次いで、このテーマ、南北問題、地球環境、地域主義などのグローバルなテーマを理解する。それから、アメリカ、ヨーロッパ、中東を取り上げ、そこでの内政、国際関係を理解する。	2	*				○				
18005	国際コミュニケーション論	主としてマス・メディアに構成された自分たちの知識の源泉を今一度問い直す。我々の価値観なども日本の持つイメージによって形成されていることを学ぶ。国際人として、自国の枠組みにのみ囚われず、国際的な基準で、公正に、公平にことごとを判断する力を身につけることを目標とする。	2	*						◎		
18006	国際経済学	国際経済学の基本的モデルを修得する。この理解を通して、具体的な貿易利益、貿易政策の経済効果、国際的分業パターン、国際間労働・資本移動などの個々の事例を理解する。	2	*								
18007	世界システム論	1. 政治・経済・文化の一体化した現実を、それぞれの側面に解きほぐしながら、また全体としてとらえ、分析する能力を身に付ける。 2. 世界システムが個々の国や社会のあり方を規定する仕組みを分析する能力を身に付ける。	2	*				◎			○	
18008	国際貿易論	国際経済・貿易の基礎的知識を身につける	2	*				○				
18008	国際貿易論	グローバル化の現状の下で、新たな国家間の相互依存関係を学ぶ。日常生活における国際貿易に関するさまざまな問題を適正に理解し、判断する力を修得する。	2	*				△				
18009	国際協力論	国際協力・対外援助の必要性和実態を理解する	2	*				△				
18010	異文化理解	国際的現象を相対的な視点から考察する能力と方法論を獲得する。	2	*				◎	○		◎	
18037	国際経済学概論	グローバル化が進む現在、日本と世界がどのようにつながっているのか、また国際経済関係を考えるためにはどのような視点が必要なのか、その基礎的な知識や理論を学ぶ。	2	*								
18011	日本文化	戦後の代表的な日本人論・日本論に関する知識を習得するとともに、日本文化の見方を身につける	1	*				○			○	
18012	日本の思想と宗教	神と仏との関係を外国人に説明できるようになる	2	*				○			○	
18013	日本史概説	日本の近世史・近代史に関する理解を深める	2	*			○	○			◎	
18014	日本経済論	日本資本主義の史的展開を通じて、日本経済の今日的課題を分析・説明する視角を身につける。	2	*				○			○	
18015	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能の形成と展開を概観し、継承・保存の問題を考える力をつける。	2	*				○			○	
18016	日本政治・外交史	幕末維新期～昭和戦前期の日本政治・外交の展開過程を理解する。	2	*			○	◎	○	△	◎	
18017	日本政治・外交論	・英語のリーディングやリスニングを上達させる。・政治学及び国際関係の専門用語を紹介する。・国際的な観点から、日本の政治・外交史を理解する。	2	*			○	◎	○	○	△	◎
18018	日本の言語と文化	日本人の言語行動を支配する社会文化的なルールについての意識を獲得するとともに、他の国々の言語と文化を比較できるようにする。	2	*				△			△	
18019	日本民俗文化論	日本は長い歴史の中で海外の様々な国の文化と出会いながら、日本独自の伝統文化を築き上げてきたことを、主に明治時代以降の日米間の関係を中心に理解する。	2	*							△	
18020	日本語学概論	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識を音声、語彙、文法、文字表記などの分野ごとに身につけ、日本語への理解と関心を深めることができる。	2	*	*						△	
18021	日本語教育学基礎	・日本語教育をグローバルな視野で概観できる。 ・日本語教育の視点から、現在、世界や日本で起こっている現象を理解する。 ・外国人から見た日本語についてや、日本語を外国語として教えるための基礎的な事項を理解する。	2	*			△	○	◎		◎	
18022	日本の文学	日本の文学伝統を具体的に理解する	2	*			○	○			◎	
18023	日本の古典文学	日本の古典文学に関する基礎的な知識を獲得すると共に、その受容の歴史について理解を深める	2	*			○	○			○	
18024	日本の近現代文学	語りや視点を意識して文学作品を読み解く意識付けができるようになる	2	*							○	
18038	日本文化体験A	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2	*				△			○	
18039	日本文化体験B	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2	*				△			○	
18025	翻訳理論 I	受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。	2	*				△	○		○	
18026	翻訳理論 II	受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。	2	*				△	○		○	
18027	英語パブリックスピーキング I A	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*				○			◎	
18028	英語パブリックスピーキング I B	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*				○			◎	
18029	英語パブリックスピーキング II A	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*				○			◎	
18030	英語パブリックスピーキング II B	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*				○			◎	
18031	英語表現法 I A	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*				○			◎	

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	アジアコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)				コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。				多文化・多民族社会であるアジアの多様性を理解でき、かつその知識を背景として、日本が位置する東アジアの近隣諸国との緊密化する交流と複雑化する関係を理解し、その上で交流の一角を担うことのできる人材を輩出することを目標とする。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。					
学類およびコースのGP(カリキュラム編成方針)				コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
【学類のCP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。 【コースのCP】 アジアコースにおいては、中国・朝鮮半島・東南アジア・南アジア・西アジアの幅広い地域について、人文科学・社会科学の様々なアプローチからの科目を提供し、学生の多様な興味関心に応えるとともに、学際的な思考力を備える人材の育成に資する。また、高度な中国語・朝鮮語能力を身につけることを可能とする言語コミュニケーション科目群を設定する。				東アジアの文化・社会の存在状況との比較の視点から、俯瞰的に東アジアの文化・社会を考察する能力を獲得している。					
コース(専攻)のカリキュラム				他の地域や世界の状況との比較の視点から、俯瞰的に東アジアの文化・社会を考察する能力を獲得している。					
				日本とアジア諸国の関係について、専門的知識に裏打ちされた自らの意見を持ち、両者の交流の仲介役となることのできるコミュニケーション能力を備える。					
				中国語・朝鮮語または英語で書かれた文献を正確に読解し、確実な情報基盤を築く能力を有している。					
				自らの論理的な思考を、正確かつ高度な中国語・朝鮮語または英語を使って表現する能力を有している。					
				日本の文化・社会・歴史についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。					
16031	英語表現法ⅠA	1.To improve reading, speaking, listening and writing in English. 2.To learn to participate actively in an all-English environment. 3.To develop a clear understanding of various international perspectives and varying Japanese perspectives related to Japan's political history.	1~2	*	△	○	○	◎	◎
16032	英語表現法ⅠB	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*			○		◎
16033	英語表現法ⅡA	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*			○		◎
16034	英語表現法ⅡB	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*			○		◎
16035	英語コミュニケーションⅠ	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2	*			○		◎
16036	英語コミュニケーションⅡ	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2	*			○		◎
51201	東アジア史概説A	・中国史、並びに東アジア史を理解するための基本的な知識を会得する。 ・東アジアの特徴を歴史的に理解できるようになる。 ・中国における歴史的事象を、東アジア史という枠組みのなかで捉えられるようになることを目指す。	2	H22	◎	○	△		△
51202	東アジア史概説B	・中国史、並びに東アジア史を理解するための基本的な知識を会得する。 ・東アジアの特徴を歴史的に理解できるようになる。 ・中国における歴史的事象を、東アジア史という枠組みのなかで捉えられるようになることを目指す。	2	H22	◎	○	△		△
51203	東アジア社会情報論A	東アジア社会の多民族化にともなう多言語・多文化社会について理解する。	2	H22	◎	○	◎		△
51204	東アジア社会情報論B	東アジア社会の多民族化にともなう多言語・多文化社会について理解する。	2	H22	◎	○	◎		△
51205	現代中国論	現代中国の政治を中心に、これと関連する社会・経済・歴史・文化についての知識を増やし、中国に対する理解を深める。	2	H22	◎	○	◎		△
51206	アジア経済史A	中国を中心とする近代東アジアの政治・経済・社会の変化を概観し、アジアにおける資本主義的発展に関する理解を深める。	2	H22	◎	○	△		
51207	アジア経済史B	中国を例としてアジアの経済的発展について概観し、経済的発展とは何かについて再考する。	2	H22	◎	○	△		
51208	環日本海地域論A	日本や朝鮮、中国の問題を主体的に考えることができるの能力の獲得	2	H23	◎	◎	◎		◎
51209	環日本海地域論B	日本や朝鮮、中国の問題を主体的に考えることができるの能力の獲得	2	H23	◎	◎	◎		◎
51210	東アジア国際交流史	・自分たちが生きている地域と東アジア諸地域との交流史に関する理解を深め、国際化に対応した地域へのアイデンティティを形成する。 ・自分が今まで持っていた東アジアについての歴史意識を再検討する作業を通じて、問題意識や批判的・論理的な思考力を養う ・グローバル化の時代に必要歴史意識や価値観を身につける。	2~4	H22	◎	◎	△		○
51211	東南アジア研究	東南アジアの、民族状況や民族の生活を学ぶことを通して、異文化理解の力を身につける。	2~4			◎			
51212	南アジア文化論	アジア諸地域で仏教の文化がどのように伝えられたかを知り、アジアにおける仏教の歴史的展開と文化的意義について理解を深める。	3~4	H22		◎			
51213	仏教文化論	石油資源の宝庫として戦後国際政治における「火薬庫」になってきた西アジア、あるいは中東で、なぜそれほど戦争や内戦が多いのか、イスラームがそれに関係するのかを学ぶとともに、国際政治に関する英語の語彙力を身につける。	2~4			◎		○	△
51214	西アジア論	石油資源の宝庫として戦後国際政治における「火薬庫」になってきた西アジア、あるいは中東で、なぜそれほど戦争や内戦が多いのか、イスラームがそれに関係するのかを学ぶとともに、国際政治に関する英語の語彙力を身につける。	2~4	H23		◎		○	
51215	西アジア文化論	西アジアの基層文化(イスラーム以前の先史・古代文化)についての基本的な枠組みを理解する。	3~4			△	◎	○	
51216	現代中国文化論	(1)現代中国の文化・社会に対する多角的・複合的な理解を深める。(2)先入観を介さない柔軟な思考力を培う。	3~4	H22	◎	○	△	◎	
51217	南北朝鮮比較研究	南北の体制が異質化する今日的な根拠を確認する事	3~4		◎	○			○
51218	在日朝鮮人研究	在日朝鮮人問題(韓国籍の人々を含む)がそもそも日本の朝鮮植民地支配(1910~1945)に淵源する事柄であることをまず正確に認識したうえで、今日のポストコロニアルな状況を踏まえ、オールドカマーとニューカマーの問題を総合的に考察する。	3~4	H23	◎	◎	◎		◎
51219	中国の文化と社会	文化や歴史上の事件に関する各論について理解し、自分の見解をもつ	2~4	H22	○	◎	△		
51220	アジア研究特論A	中国の近代史の一面を知ることを通して、中国や日本に対する理解を深める。	2~4	H22	◎	○	◎		
51221	アジア研究特論B	歴史的な観点から、日中間の民間レベルでの相互意識のあり方を振り返り、日中関係への理解を深める	3~4		○	◎	△	△	
51222	中国語コミュニケーションA	単文単位で自然な発音ができ、中国語検定試験3級レベルに到達する。	2	H22			△	◎	○
51223	中国語コミュニケーションB	単文の作文課題を解いて、ヒアリングとスピーキング能力を高める。	2	H22			◎	△	○
51224	中国語コミュニケーションC	長文読解力を高め、増加した語彙数とともに、特定のテーマごとに作文ができる	2	H22			△	◎	○
51225	中国語コミュニケーションD	テーマについての文章を作り、ヒアリングとスピーキング能力を高める。	2	H22			◎	△	○
51240	ビジネス中国語	より高度な中国語コミュニケーション能力を養成しながら、ビジネスで必要な会話表現を学習し、ビジネスシーンでの表現能力を高める。	2~4	H22			◎	◎	
51226	中国語表現法A	テーマ別に使用語彙を習得、活用し、自分の意見を表明できる。	3~4	H22		○	△		◎
51227	中国語表現法B	テーマ別に使用語彙の習得量を増やし、他の受講者と意見交換ができる	3~4	H22		○	△		◎
51228	現代中国時事文	報道文の表現文型を習得し読解力を高め、報道姿勢を理解する。	3~4	H22	△	○	◎		

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	アジアコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)													
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。		多文化・多民族社会であるアジアの多様性を理解でき、かつその知識を背景として、日本が位置する東アジアの近隣諸国との緊密化する交流と複雑化する関係を理解し、その上で交流の一角を担うことのできる人材を輩出することを目標とする。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材育成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。													
学類およびコースのGP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)													
【学類のCP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。 【コースのCP】 アジアコースにおいては、中国・朝鮮半島・東南アジア・南アジア・アジアの幅広い地域について、人文科学・社会科学の様々なアプローチからの科目を提供し、学生の多様な興味関心に応えとともに、学際的な思考力を備える人材の育成に資する。また、高度の中国語・朝鮮語能力を身につけることを可能とする言語コミュニケーション科目群を設定する。		東アジアの文化・社会の存在様態についての高度な専門知識を習得している。 他の地域や世界の状況との比較の視点から、俯瞰的に東アジアの文化・社会を考察する能力を獲得している。 日本とアジア諸国の関係について、専門的知識に裏打ちされた自らの意見を持ち、両者の交流の仲介役となることのできるコミュニケーション能力を備えている。 中国語・朝鮮語または英語で書かれた文献を正確に読解し、確実な情報基盤を築く能力を有している。 自らの論理的な思考を、正確かつ高度な中国語・朝鮮語または英語を使って表現する能力を有している。 日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。													
コース(専攻)のカリキュラム															
51229	現代中国時事文B	中国語報道文のヒアリング能力を高め、目中的報道姿勢を分析できる	3~4		H22	◎	△								
51230	朝鮮語コミュニケーション I A	朝鮮半島を中心とした韓国・朝鮮の人々とのコミュニケーションが可能となる能力の獲得を目指す。	2		H23	○	○	◎	◎	◎					
51231	朝鮮語コミュニケーション I B	朝鮮語のコミュニケーション能力を高めます。韓国文化の理解を深めます。レベルとしては、「ハングル能力検定試験」の3級を目指す。[聞く・話す]簡単な依頼・伝言・道案内などができる。銀行・郵便局・駅などの窓口で用を出すことができる。	2		H22	○	○	◎	◎	◎					
51232	朝鮮語コミュニケーション II A	朝鮮半島を中心とした韓国・朝鮮の人々とのコミュニケーションが可能となる能力の獲得を目指す。	2		H23	○	○	◎	◎	◎					
51233	朝鮮語コミュニケーション II B	聞く・話す: 日常会話ができる。たとえば、状況、場面に応じ、適切な挨拶や紹介、対応などができる。電話で簡単な会話ができる。読む: 新聞や雑誌を辞書なしである程度内容が理解できる。書く: 作文ができる。たとえば、一日の日記や手紙などが書ける。韓国(朝鮮)歴史・文化理解	2		H22	○	○	◎	◎	◎					
51234	朝鮮語コミュニケーション III A	現代の韓国の経済・社会・文化・教育などについて理解する。『朝鮮日報』の新聞記事を読み、読解のレベルアップをはかる。	3~4		H22	△	△	◎	◎	◎					
51235	朝鮮語コミュニケーション III B	世界に広まる「韓流」の根源を探る。会話能力を向上させる。	3~4		H22	△	△	◎	◎	◎					
51236	アジア研究演習A	東アジアに関する歴史・政治・経済・社会などの様々な角度からの知見に触れ、基礎的な知識を得て、自らの考えを形成する。	3		H22	◎	◎	◎	◎	◎					
51237	アジア研究演習B	卒業論文の作成	4			◎	◎	◎	◎	◎					
38001	インターンシップ	・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での業務内容を理解できる ・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での国際的な業務についても理解できる ・自らに適合した将来の進路を選択する能力を向上させる	3		H22		○	◎	△						
38002	卒業論文	自らのテーマでアジア研究を行い、論文を完成させる。	4		H23	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎			
38151	異文化体験実習 I (海外)	海外等での語学研修やボランティア活動等に参加して、コミュニケーション力を習得し、さまざまな文化に親しむ。	1~4		H22		◎	◎	◎	◎					
38152	異文化体験実習 I (ドイツ)	ドイツでのサマーコースに参加してドイツ語のコミュニケーション力をつけるとともにドイツの文化や生活に親しむ。	2~4		H22										
38153	異文化体験実習 I (フランス)	フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランスでの生活体験や課題の達成を通して、フランスの文化に親しむ。	2~4		H22		△								
38154	異文化体験実習 I (中国)	中国語検定試験二級合格を目指す。	2~4		H22	◎	○	◎	◎	◎					
38155	異文化体験実習 I (中国)	中国語検定試験二級合格を目指す。	2~4		H22	◎	○	◎	◎	◎					
38156	異文化体験実習 I (イギリス)	たんなる語学研修に終わらない、イギリスに関する幅広い知識が習得でき、また、イギリスの人や風土とじかに接することができる。	1~4				△			◎					
38201	異文化体験実習 II (海外)	異文化体験実習 I で学んだ語学の習得	1~4		H22			◎	◎	◎					
38202	異文化体験実習 II (ドイツ)	異文化体験実習 I で学んだドイツ語の習得	2~4		H22										
38203	異文化体験実習 II (フランス)	フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランス語検定試験で適切な級の認定を受ける。	2~4		H22		△								
38204	異文化体験実習 II (中国)	中国語検定試験二級合格を目指す。	2~4		H22				◎						
38205	異文化体験実習 II (イギリス)	ケンブリッジ語学研修を通して、さらなる英語の力を身に付けるとともに、イギリスの諸文化、歴史にじかに触れることで、英国の層の厚さを理解する。	1~4				○								◎